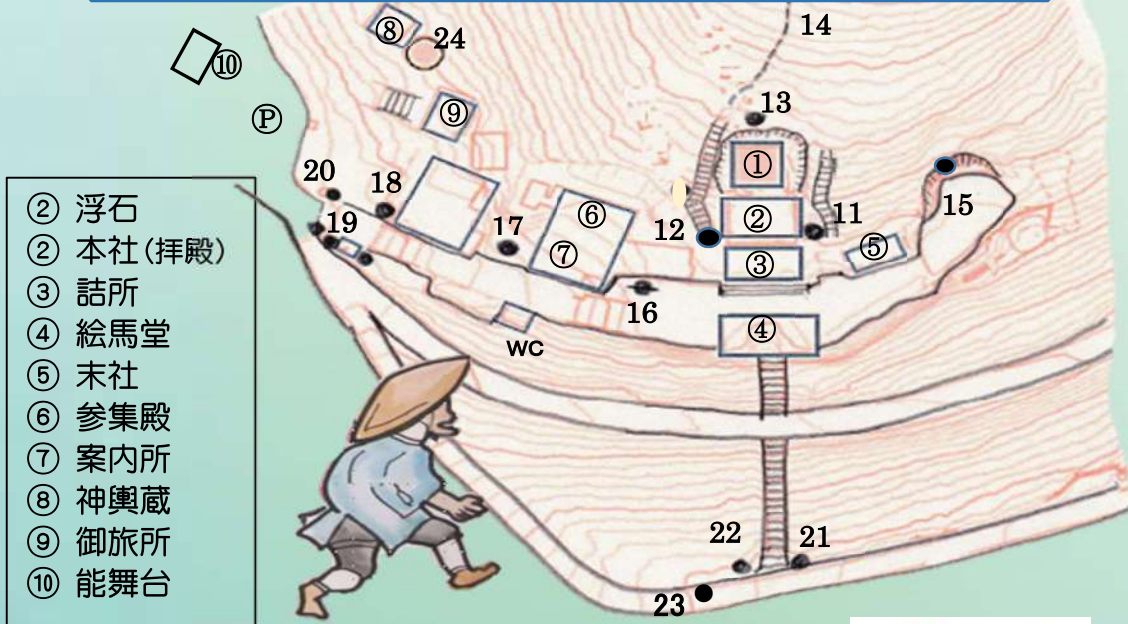


# 石の宝殿神社史跡めぐり



- ② 浮石
- ② 本社(拝殿)
- ③ 詰所
- ④ 絵馬堂
- ⑤ 末社
- ⑥ 参集殿
- ⑦ 案内所
- ⑧ 神輿蔵
- ⑨ 御旅所
- ⑩ 能舞台

- 11 霊岩
- 12 夜燈;石灯籠
- 13 玉垣
- 14 山頂
- 15 大ズワリ
- 16 記念碑  
(大正天皇)
- 17 句碑  
(島津の姫)
- 18 石灯笼 1
- 19 国史跡碑
- 20 三の鳥居
- 21 二の鳥居
- 22 石灯笼 2
- 23 家紋石
- 24 竜山1号墳

① 浮石 465トンもある巨大な石造物。播磨風土記に物部の守屋が造らせたと書かれていましたが、それ以外は全く謎にまつまれた石。浮石の下は水平方向に割れており、東側に溝を深く彫り立てようとしていた様です。



★ご神体の浮石に直接触れることができます。しっかりパワーをもらって下さい。



② 本社(拝殿) 現在の本社は天保15年(1844)に棟上げ再建されたもの。右側に少毘古那を、左側に大穴牟遲の2神が祀られています。このような造りを「割り拝殿」といいます。



③ 詰所 階段の上の詰所は江戸時代の末期に建てられたものです。

④ 絵馬堂 文化13年(1816)以降の建築。市指定文化財の算額のレプリカが掛かっており、本物は本社の中央の上にあります。備中井原の佐藤善一郎一門の算額は東播磨では、ここと稲美国安の天満神社の2つしかありません。



算額



⑤ 末社 H23に再建。生石神社は播磨巡覧図絵などによればもっと広く建物があった様です。

⑥ 参集殿 2階の参集殿は大広間があり、神社の諸行事・直会や講演・会議などにも使われています。

⑦ 案内所(浮石資料館) 一階に令和2年6月に開設され 市観光交流ビューローの管理のもと土日祝にオープンしています。



⑧ 神輿蔵と⑨ 御旅所 神社境内に御旅所があるため 神輿は秋祭りの宵宮に当番の村に運ばれ、翌朝村を回って 本宮の当日は本社、御旅所と練場の間を練りまわります。

⑩ 能舞台 H11年に移動、新築された。秋祭りにはお面掛けの神事が行われます。



石の宝殿研究会は H29年7月発足、石の宝殿周辺遺跡の魅力の再発見に努め 出前講演や写真展、クイズラリーなど PR 活動を行っています。

発行者;石の宝殿研究会 080-4021-9095

発行日;令和2年(2020) 6月30日





**11 霊岩** 下の面が座りキズで切れていることが明確で、これを根拠に浮石制作にかかったと推察される。パワースポットです。皆で押してみましょ。



**12 夜燈・石灯籠**

島村の石工さん達が精魂込めて造った灯籠です。一説には播磨灘を照らす灯台の役目も担っていたとも言われています。

**13 玉垣**

昭和4年に建てられ、日毛印南、多木肥料、稲岡工業、旅館など当時の有力企業の名前が見られます。

**14 宝殿山山頂** 明治42年の大正天皇(皇太子時代)行幸の記念碑がたっています。絶景のビューポイントです。山頂の北10mほどの地点からは晴れた日には山間に 姫路城が見えます。



**15 大ズワリ(座りキズ)** 末社の北の方に行くと 下の岩場と奥の岩壁が 直角になっているところに出ます。岩が固まる時に出来る水平方向の割れで、浮石をつくる前の 状況を垣間見ることが出来ます。



**16 大正天皇行幸記念碑**

明治42年皇太子の時、この地に陸軍の演習を観閲の目的で行幸された。山裾の二の鳥居から石段を登られ山頂まで行かれました。

**17 姫様の句碑と腰掛岩** 寛文の頃、島津の姫様が12歳(7歳?)の時に丸石に腰を掛けて和歌を詠まれた。「たまにきてまたこむことのかたければ なごり生石の 石の御社(みあくら)」



**18 石灯籠**

文政12年(1829)大阪世話人の他20数名により建造。石の販売関係者の名前が並びます。



**19 国史跡碑とおんびき蛙** 三の鳥居の下に国史跡碑とおんびき蛙が出迎えてくれます。採石場の棟梁が夢枕で「カエルを彫れば商売繁盛する」と神様のお告げがあったとか。



**21 二の鳥居** 「宝暦10年(1760)大阪心齋橋筋 菊屋」との名前があり当時の繁栄が偲ばれます。

**22 石灯籠2** 寛延3年(1750)に古文書にも記載のある大阪の石問屋4軒が建てたもの。(井筒屋、塚屋、江戸屋、名田屋)



**20 三の鳥居の石額** 三の鳥居には「生石子神社」の石額が上がっている。播磨地誌「峯相記」にのみ見られ、隣の2基の灯籠にも同じ表記がある。

**23 家紋石** ももとは竜山の山腹にあったもの。採石により落下し2つに割れました。竜山石が姫路藩の専売品となったのを記念して島村の石工達が作ったものでは思われます。



**昔の本社** 昭和54年に本社の屋根は檜皮葺きから銅葺き屋根に改修、また参道の石段もコンクリート道に改修されました。



**24 竜山1号墳** 神輿蔵のすぐ後ろが1号墳で、石棺とその蓋がむき出しで見られます。採石場を纏めていた首長の墓とも言われていますが詳しくは不明です